

開館 30 周年記念誌の刊行に寄せて

千葉県立中央博物館 館長 萩原 恭一

平成元（1989）年に開館した千葉県立中央博物館が、平成最後の年に開館 30 周年を迎えました。当館の開館以来のこの 30 年間は、まさに平成という時代と寄り添うように過ぎて来たわけです。博物館準備室時代や開館当初を知る職員も、ここ数年の間に徐々に定年退職を迎え始めています。開館 30 周年というこの時期は、当館にとっても一つの大きな節目なのかも知れません。

開館から今までの間に、平成 11（1999）年には分館海の博物館が開館し、平成 16 年から県立博物館は有料化の時代を迎え、平成 18 年にはそれまで独立の機関であった大利根博物館と総南博物館を、それぞれ大利根分館、大多喜城分館として当館の分館に組み入れるという大きな変化がありました。そして、平成 20 年 4 月には、館内に生物多様性センターが設置されました。また、大変残念なことではありますが、平成 26 年 3 月には友の会の解散がございました。現在、友の会の活動を引き継ぐ形で中央博サークルが様々な活動を行っています。

平成 21（2009）年に開館 20 周年の記念誌を発行しておりますが、今回、その後の十年間を中心として、職員、職員OBさらにサークル会員の皆さんから、33 篇のトピックス的な内容の原稿を寄せていただきました。職員の研究活動、企画展示にまつわる思い出、教育普及事業、他機関との連携事業、サークル活動、さらに市民ボランティアや市民研究員の皆さんとの協働で進めて来た調査活動など、さまざまな活動や事業の断面が生き生きと描かれています。文体はあえて統一せず、それぞれの寄稿者の思いにふさわしい文体で書いていただきました。

そしてさらに今、私たちは県立博物館全体の再度の見直しと、博物館法の改正という、大きな変革の時期を迎えています。この先の 10 年、20 年がどのような時代となるのか、私たちには予想もつきませんが、今後も県立博物館の中央館としての機能と責任を十全に果たしながら、開かれた博物館として県民の皆さまとともに活動を続けてまいりたいと考えております。どうか今後とも、御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。